留萌エコ村構想

（留萌ダム水源地域ビジョン　行動計画書）

留萌ダム水源地域ビジョン検討会

－ 目 次 －

１．留萌エコ村の経緯 ----------1

２．水源地域ビジョンとは----------3

３．留萌市の概要 ----------4

４．留萌ダムの概要 ----------7

５．留萌エコ村とは ----------9

６．留萌エコ村の目指す姿---------- 11

７．留萌エコ村活動憲章 ---------- 12

８．留萌エコ村の活動計画---------- 13

９．これまでの経緯 ---------- 14

１０．これからの留萌エコ村---------- 23

【参考資料】

留萌エコ村の活動資金---------- 26

留萌ダム水源地域ビジョン検討会事務局 ---------- 26

ニュースレター ---------- 27

１．留萌エコ村の経緯

●「留萌ダム水源地域ビジョン」を『留萌エコ村』と名付けました。

平成 22 年に留萌ダムが完成します。留萌ダムの整備と並行してダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的とした「留萌ダム水源地域ビジョン」を策定することになりました。

留萌ダム水源地域ビジョンの策定は、ダム水源地域の自治体である留萌市、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり進めてきました。

具体的には、平成 18 年 10 月から「留萌ダム水源地域ビジョン検討会」をスタートさせワークショップなどを行いながらアイディアを出し、実践を行いながら進めてきました。

検討会、企画会議を重ねる中、ダム周辺の環境保全や楽しく交流する活動を地域全体に広げていきたい思いから「留萌エコ村構想」案が提案されました。その中で、留萌ダム水源地域ビジョンを広く知ってもらうためには、自分たちの活動や目指すところをわかりやすく伝えることが大切であり、そのために「留萌ダム水源地域ビジョン」を『留萌エコ村』と名付けることとしました。

●実践しながら構想をつくってきました

留萌エコ村の開村までには、平成 18 年度に出されたアイディアを基本に現地見学会や試行活動など、できることから具体的に実践し、アイディアを検証し、そこに新たなアイディアを加えながら、確実性のある構想にしてきました。

試行活動は、委員が自ら企画会議で企画を検討し、準備や当日の運営にも参画して、アイディアから活動の実施計画、当日の運営までを体験しました。

アイディア
平成18年度アイディア
自然体験・湖面利用
歴史文化・観光振興
食　など

実践
できることから
やってみよう！

実践活動からメンバーの交流と役割分担を決めていく

検証
実践活動から
アイディアを検証する

検証結果は、留萌エコ村の構想や活動計画に反映させる

構想
計画

構想・計画をさらにステップアップ

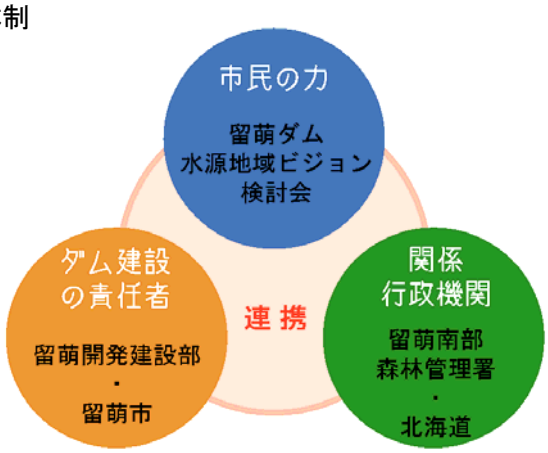
2. 水源地域ビジョンとは

●水源地域ビジョンの概要

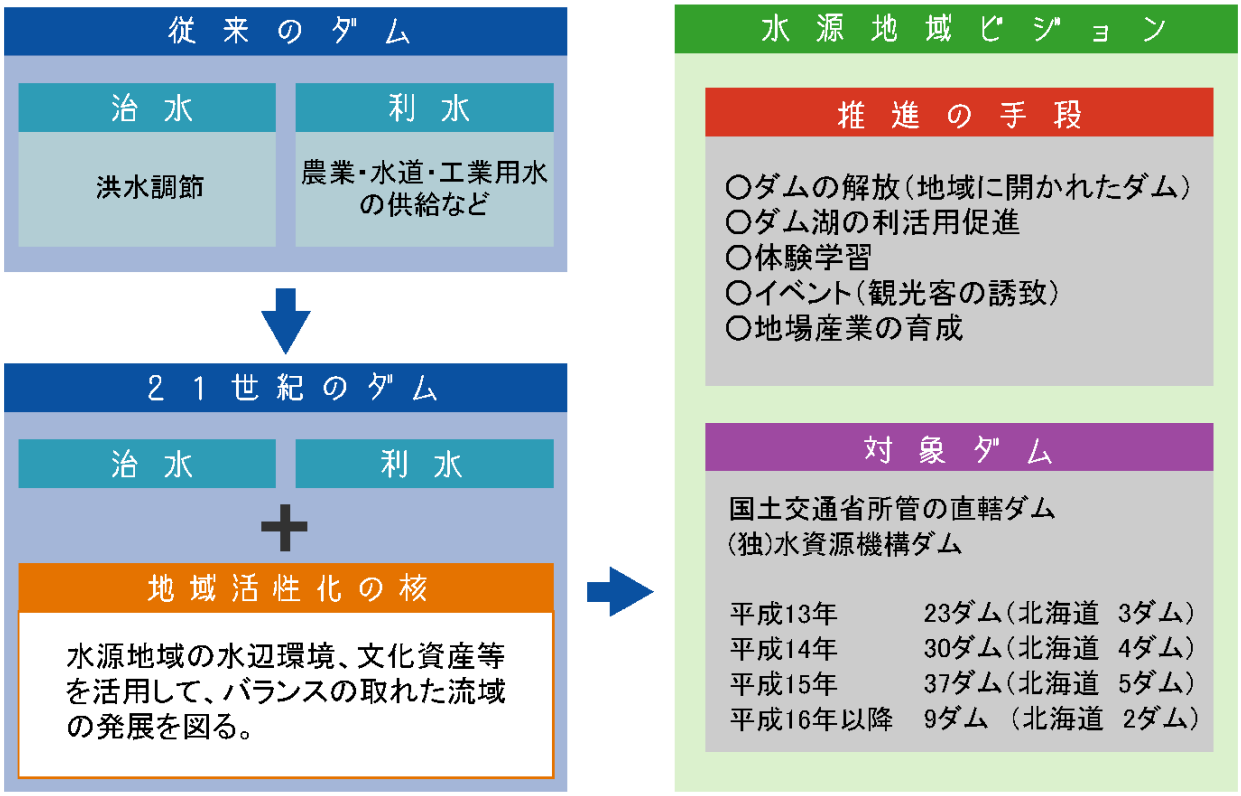
留萌ダムができる周辺の地域で、ダムをうまく活用して地域が元気になるような取組みを、地域の方々と実践していけるように、地域の方々と行政が協力して知恵を出し合い、役割分担しながら「ビジョン」＝「計画」をつくり、実行していくことです。

計画は、検討会を中心に市民の方々と関係行政機関が協力してつくります。

■検討の体制



■水源地域ビジョンのイメージ図



3. 留萌市の概要

●留萌市の概要

留萌市は、北海道西北部における留萌支庁管内の中心都市であり、水産加工を基幹産業とし、さらに国の重要港湾を核として、発展を続けています。

市の地形を概観すると、東西に走る留萌川を中心に両翼には平原、丘陵が続き、南側の地形は比較的高度のある山並みがあり、北部は低位な丘陵地です。市の中心部は商店街によって形成され、南部には官公庁、学校、住宅地が広がっています。

豊かな自然に恵まれた留萌市は、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、暑寒別山系をはじめ夢の浮島といわれる天売・焼尻が望まれます。

○留萌市の人口（平成 20 年 3 月末現在、住民基本台帳）

＞男　　１２，５６７人

＞女　　１３，４５０人

＞計　　２６，０１７人

≫世帯数　　１２，５８４世帯

○市名の由来

アイヌ語のルルモッペが語源。

ルルは（汐）モは（静）ヲッは（ある）ペは（水）のこと。「汐が奥深く入る川」という意味で、留萌市を流れる留萌川から名づけられている。

●留萌市の農業

留萌市は、稲作を中心に農業が営まれています。稲作の他にはかぼちゃ、大根、キャベツといった畑作も行われています。

特に、日本の水稲生産の北限である留萌地域は、道内有数の良質米産地として高い評価を得ています。

■水稲の収穫作業

●留萌市の水産業

ホタテ稚貝養殖、刺し網、さけ定置、たこ、うになどの漁業が行われ、また、沖合では武蔵堆などの好漁場を擁し、エビ、タラ漁業などが行われています。

また、水産基盤整備のため漁港整備や魚礁等の設置を行っており、併せて、ニシン・ヒラメ・サケ・アワビ・ウニなどの種苗を管内各地で放流し、「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換が図られています。

■ニシン網外し風景

●留萌市の林業

留萌市の森林面積は総面積の半分以上を占め、公益的な機能を重視した保全・管理がされています。

近年、環境重視型社会の中で、多様な機能を持つ森林に対する期待は高まっており、環境づくりの関係者と地域住民が連携し、河川周辺の緑化事業や森林とのふれあいや理解を深めるための体験学習などの取り組みがされてきています。

■森の中での観察会

●留萌市の商工業

商業は、大部分が規模の小さな商店であることや、人口の減少に加え、購買力が札幌、旭川などへ流出しています。このため、地域住民のニーズに的確に対応した魅力ある商店街づくりを進めることが課題となっています。

工業は、水産加工品を中心とした食料品製造が製造業の主要業種となっています。

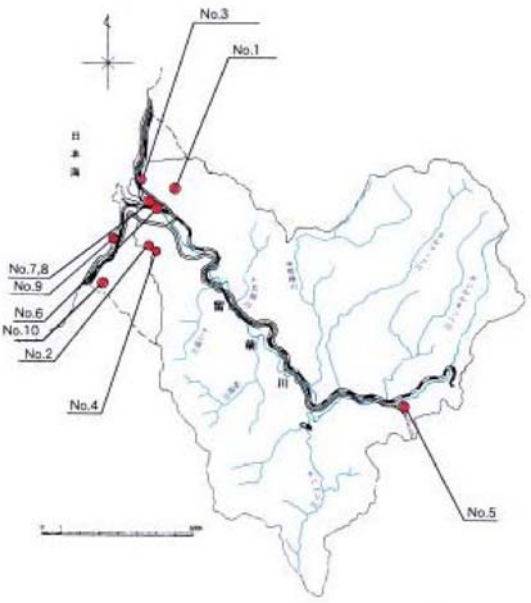
■塩かずのこの加工

●留萌市の観光

留萌市の南北の海岸線は、「日本海オロロンライン」の愛称で呼ばれ、海水浴シーズンを中心に多くの観光客が訪れています。近年は、温泉を利用した施設の整備が行われ、従来の通過型観光から通年・滞在型観光への取り組みが進められています。

留萌市と近隣の市町村は、日本海に面しているという地域特性を生かし、1987 年から「日本海オロロンライントライアスロン国際大会」が近隣の市町村を競技会場とした広域イベントとして開催され、地域住民の連帯意識の高揚と地域の活性化に寄与しましたが、2006 年の第 20 回大会を節目としてその幕を閉じました。

現在は、「うまいよ！るもい市」が定期的に行われている他、夏の観光シーズンを中心に、各地の特産品を生かしたイベントが多数開催されています。また、留萌市「萌っこ春待里」など、冬を積極的に楽しむ取り組みも盛んに行われています。



1：神居岩総合公園
2：千望台
3：マサリベツ望洋の森
4：るるもっぺ憩いの森
5：どんぐりの里
6：るもい呑涛まつり
7：留萌川まつり
8：河川敷画廊
9：留萌海岸（CCZ）
10：礼受牧場

■留萌市の主な観光資源

■るもい呑涛まつり

4. 留萌ダムの概要

●留萌ダムの概要

留萌ダムは留萌川河口から南東約 20km 上流のチバベリ地区で建設を進めています。

留萌ダムは、平成 21 年 3 月初めより試験的な湛水を行います（試験湛水）。平成２２年度からは、ダムの効果が発揮される見込みです。

□地名の由来　～チバベリ～

チは（われら）、バは（…の上）、ベは（水）、ルは（路）、すなわち「われらのかみ手の水路」という意味です。

■留萌ダムの位置

■留萌ダム完成予想図

●留萌ダムのはたらき

留萌川はその源を天塩山地の南端に発し、タルマップ川、チバベリ川などの支川を合わせ、北西に流下し日本海に注ぐ、流域面積約 270km²、幹線流路延長約 44km の一級河川です。

留萌川は過去に幾たびとなく氾濫を引き起こし、特に、昭和 63 年 8 月の史上最大の洪水では、市中心部は壊滅的な被害を被りました。その一方で、留萌川では夏期に流況が悪化し、渇水となることが多く、豊かな水環境の保全のため、安定した流量供給が必要とされています。

また、留萌市は周辺部への宅地化の急速な進展・下水道の普及・市街地再開発・船舶への給水など水需要が増加し、新たな水源の確保を必要としています。

このような現状下、治水・利水を目的とした留萌ダムの建設が重要かつ緊急的なものとして位置づけられました。

【洪水調節】

ダム地点に流入する洪水時の流量（計画高水流量）430 ㎥/s のうち、400 ㎥/s をダムに貯留し、ダム下流の水害を軽減します。

※計画高水流量
川の堤防工事などの基準で、その川（堤防等）が耐えられる最高の流量

■昭和 63 年 8 月　洪水

【流水の正常な機能の維持】

生活や産業のための用水や、川の動植物の生息環境・水質・河川の景観を守る等、豊かでうるおいのある川の流れを維持するための水を補給します。

■留萌川

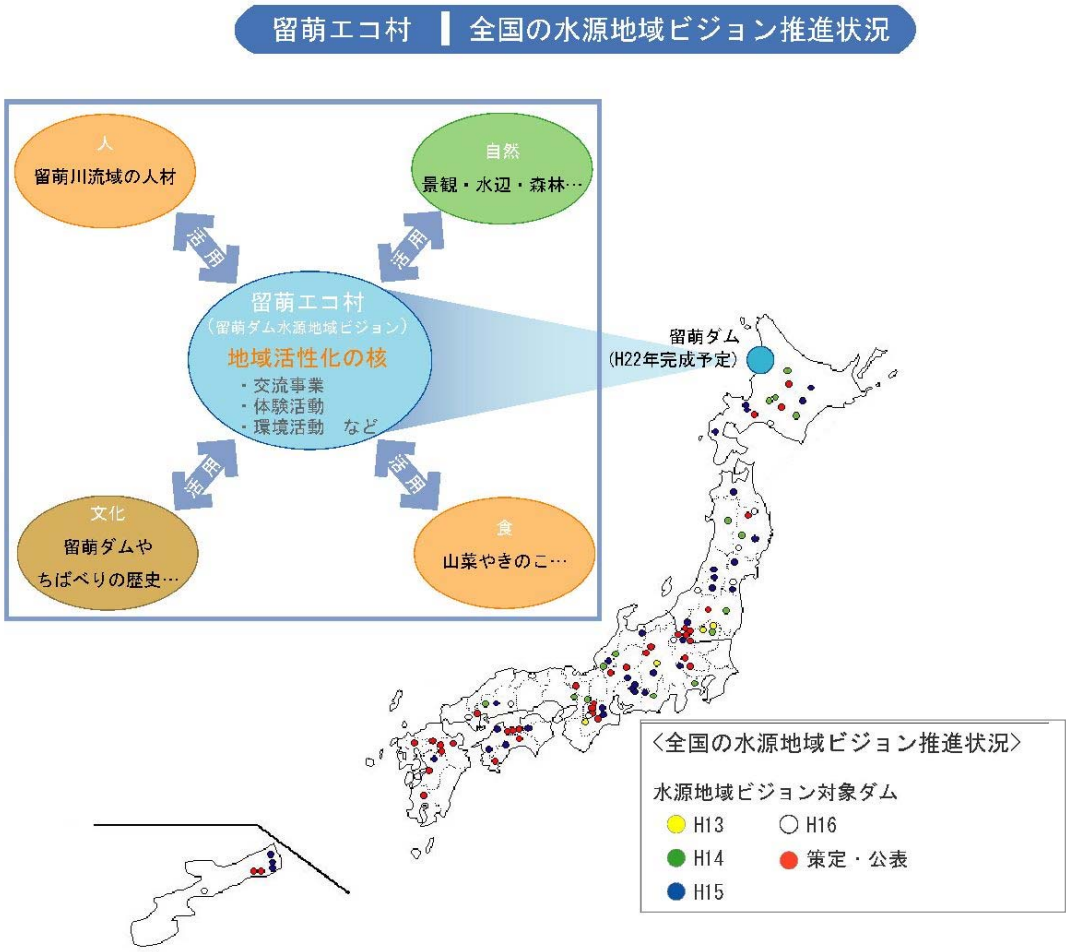
【水道水の補給】

留萌市に対して日量 4,600 ㎥の水道用水の取水を可能にします。

5. 留萌エコ村とは

●留萌エコ村とは

留萌エコ村は、留萌ダム周辺の人材・文化・自然環境などを活かしながら、留萌ダムを核として、市民が主体となって、これまで取り組んできている「種採り探検隊」などの自然体験ツアーでの交流事業、留萌ダム流域の様々な地域資源を活かした体験活動、天然資源を活用したバイオエネルギー開発の可能性を探る環境活動など幅広く実施するものです。



●留萌エコ村の資源

自然	海と川と湖、それぞれ違う魅力 水辺の安らぎ感 ダム周辺の自然景観 雄大なダム湖 ホタル・サギ・タカなどが生息する貴重な自然環境 右沢の奥の温泉
食資源 農産物	サケ・秋アジ、ヤツメウナギ・ヤマベ・マス・ワカサギなどの川魚 舞茸・なめこなどの豊富なきのこ 山わさび・コクワ・マタタビなどの様々な山菜 山葡萄などの天然の果物 留萌産の米・小麦・そば粉・かぼちゃなど
文化	チバベリの歴史・文化 留萌市・留萌川・留萌港など、地域の歴史

6. 留萌エコ村の目指す姿

留萌エコ村では、以下のことを目指しています。

留萌エコ村の目指す姿

- 水の大切さや、留萌ダムについて広く学び周知します。
- 留萌ダムに関連する歴史的な背景から留萌を知り伝承します。
- 留萌ダム流域（上流から下流）を利活用した事業で留萌を売り込みます。
- 自然空間の中での遊び心を育みながら、大切な自然環境を守ります。
- 関係する諸団体や様々な機関と情報を共有し、元気なエコ村をつくります。

7. 留萌エコ村活動憲章

留萌エコ村活動憲章は、留萌エコ村がどのような活動を行っていくのか、その方向性を示すものです。

1.水の大切さや、留萌ダムについて広く学び周知します。

- 留萌エコ村では、「留萌エコ村立ちばべり學校」の授業を通じて水の大切を学びます。
- 留萌エコ村では、留萌の地域資源である留萌ダムについて学びます。
- 留萌エコ村では、留萌ダムの役割や大切さを広く伝えます。

2.留萌ダムに関連する歴史的な背景から留萌を知り伝承します。

- 留萌エコ村では、地域の歴史を大切にします。
- 留萌エコ村では、留萌ダムがつくられるまでの経緯について学びます。
- 留萌エコ村では、留萌ダムがつくられるチバベリの歴史について学び、伝えます。

3. 留萌ダム流域（上流から下流）を利活用した事業で留萌を売り込みます。

- 留萌エコ村では、「ふるさと探検」などを行いながら、留萌ダム流域の地域資源の再発見に努めます。
- 留萌エコ村では、留萌ダム流域の地域資源を広く知ってもらうために情報発信を行います。
- 留萌エコ村では、留萌ダム流域の地域資源を活かして留萌を売り込む活動を行います。

4. 自然空間の中での遊び心を育みながら、大切な自然環境を守ります。

- 留萌エコ村では、「山菜とり」や「キノコ採り」など留萌ダム流域の自然を楽しむ活動を行います。
- 留萌エコ村では、自然を体験・楽しむ活動を通じて遊び心を育みます。
- 留萌エコ村では、植樹など大切な自然を守る活動を行います。

5. 関係する諸団体や様々な機関と情報を共有し、元気なエコ村をつくります。

- 留萌エコ村では、留萌開発建設部や留萌市役所、森林管理署など関係する行政機関と情報の共有を行いながら協働で活動を行います。
- 留萌エコ村では、留萌を元気にする活動を行っている様々な団体と連携して活動します。
- 留萌エコ村では、人との交流を進め、たくさんの留萌ファンをつくるようにします。

8. 留萌エコ村の活動計画

留萌エコ村では、留萌ダム周辺及び留萌の地域資源を活かしながら四季折々の活動を持続的に行っていきます。

春

- 留萌ダム周辺の森林での樹液とり
- 留萌ダム周辺での春の山菜とり
- 植樹
- 拠点づくり
- 留萌川下り

夏

- 留萌ダム周辺および森林でのクワガタ・カブトムシとり
- 植物を使ったハガキづくり
- コクワ採りとジャムづくり
- 育林活動・野遊び
- 留萌川や留萌ダムの水質調査
- 森の素材を使ったなつの工作教室
- 右沢の奥の温泉、石油沢、砂金沢の探検
- 水に親しむ環境づくりと遊び

秋

- リースづくり
- 留萌産小麦での手づくりパンづくり
- 間伐体験
- 基地づくり・笹小屋づくり
- きのこ探しときのこ汁
- サケの遡上見学
- 留萌産のそば粉を使ったソバ打ち

冬

- かんじきツアー
- 語り部のお話し会
- 留萌ダム周辺の粘土を使った陶芸

9. これまでの経緯

●検討会の開催結果

開催日	名称	主な検討内容
H18.10.24	第 1 回検討会	・ダム水源地域ビジョンとは ・留萌ダムの概要説明
H18.12.20	第 2 回検討会	・ダムと周辺地域の資源の活用方法 ・「ダム周辺環境整備計画」のアイディア
H19.2.28	第 3 回検討会	・ダムと周辺地域の資源の具体的活用方法
H19.7.1	第 4 回検討会 ダム現地見学会	・現地体験会（ダム堤体、マルチング・混植箇所、ビオトープ試験地、幌糠産そば打ち体験） ・平成 19 年度の進め方について ・平成 19 年度に取り組む企画案
H19.9.13	第 5 回検討会	・秋の実践活動について ・検討委員の交代について
H20.1.24	第 6 回検討会	・組織づくり ・構想づくりの今後のスケジュール
H20.3.16	第 7 回検討会 冬の活動	・留萌ダム水源地域ビジョンについて ・陶芸教室
H20.6.15	第 8 回検討会 春の活動	・春のハイキング ・今後の各課会議の進め方について ・開村式の内容について
H20.8.25	第 9 回検討会	・平成 20 年度の活動内容について ・開村式の具体的な内容について ・行動計画書について
H20.9.22	第 10 回検討会	・開村式の具体的な内容について ・行動計画書について
H20.11.20	第 11 回検討会	・行動計画書及び手交式 ・試行活動、活動資金

●企画会議・各課会議の開催結果

開催日	名称	主な検討内容
H19.7.30	第 1 回企画会議	・名称、活動内容、活動拠点、今後について
H19.8.28	第 2 回企画会議	・実践活動について
H19.10.3	第 3 回企画会議 (拡大会議)	・秋の実践活動の概要について ・拠点づくり秋の工作づくり、食
H19.11.21	第 4 回企画会議	・秋の実践活動の反省 ・留萌ダム水源地域ビジョン
H19.12.13	第 5 回企画会議	・秋の実践活動の経費についての報告 ・留萌ダム水源地域ビジョン(今後の進め方)について ・検討会について
H20.7.17	第 1 回各課会議	・平成 20 年度のスケジュールについて ・開村式の内容について
H20.7.31	第 2 回各課会議	・開村式の具体的な内容について
H20.9.5	第 3 回各課会議	・開村式の具体的内容について ・行動計画書について
H20.10.30	第 4 回各課会議	・行動計画書手交式について ・行動計画書について ・試行活動について

●試行活動の開催結果

○現地見学会（留萌ダム）

1)開催概要

・日　　時　　平成 19 年 7 月 1 日（日）　9：00～12：30
・開 催 場 所　　留萌ダム建設現場
・参　加　者　　検討会委員：13 名
　　関係行政機関・事務局：25 名　　合計 38 名

2)議事次第

・ダム堤体及びダム下環境整備地区の見学
・マルチング・混植箇所の見学
・ビオトープ試験地の見学
・蕎麦うち体験

▲ダム堤体見学の様子①

▲ダム堤体見学の様子②

▲マルチング・混植箇所の見学の様子

▲蕎麦うち体験の様子①

○秋の実践活動

1)開催概要

・日　　時　　平成 19 年 10 月 13 日（土）　10：00～15：00
・開 催 場 所　　留萌ダム建設現場
・参　加　者　　検討会委員：10 名
　　関係行政機関・事務局：21 名　　合計 32 名

2)議事次第

・拠点づくり・きのこ探し
・秋の工作
・留萌ダムのちょっといい話

▲きのこ探しの様子

▲工作の素材探しの様子

▲リースづくりの様子

▲べこもちづくりの様子

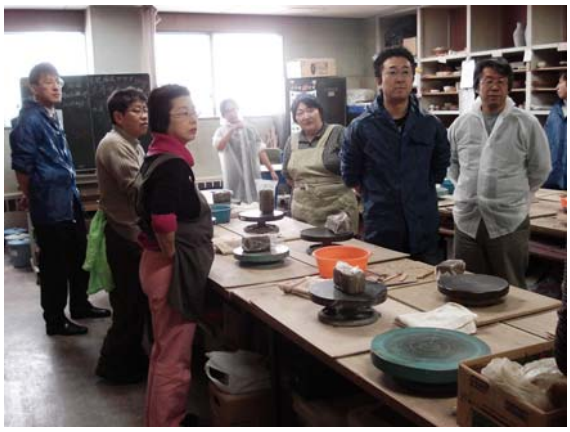
○冬の活動

1)開催概要

・日　　時　　平成 20 年 3 月 16 日（日）　10：00～12：00
・開 催 場 所　　留萌中央公民館　工作室
・参　加　者　　検討会委員：5 名
　　関係行政機関・事務局：9 名　　合計 14 名

2)議事次第

・留萌ダムの粘土の話し
・陶芸教室



▲説明を聞いている様子

▲陶芸の様子

▲陶芸の様子

▲陶芸の様子

○春の活動

1)開催概要

・日　　時　　平成 20 年 6 月 15 日（日）　10：00～12：00
・開 催 場 所　　留萌ダム周辺（留萌南部森林管理署が管理している林道）
・参　加　者　　検討会委員：8 名
　　関係行政機関・事務局：11 名　　合計 19 名

2)議事次第

・春のハイキング（ダム周辺の植物などのパンフレットを事前作成）

▲集合写真

▲ハイキングの様子

▲ハイキングの様子

▲昼食の様子

○留萌エコ村開村式

1)開催概要

・日　　時　　平成 20 年 9 月 28 日（日）　10：00～13：30
・開 催 場 所　　幌糠小学校、留萌ダム周辺
・参　加　者　　検討会委員：8 名
一般参加者：13 名
関係行政機関・事務局・報道関係者：24 名　　合計 45 名

2)議事次第

１．開会
２．くす玉割り
３．留萌エコ村村長の挨拶
４．留萌エコ村の目指す姿の紹介
５．留萌ダム建設事業所長の挨拶
６．留萌エコ村村役場職員の紹介
７．留萌ダムとチバベリの歴史の紹介
８．記念植樹と記念撮影
９．昼食
１０．留萌ダムの見学
１１．閉会

▲開村式（くす玉割り）の様子

▲記念植樹の様子

▲記念撮影の様子

▲留萌ダムの見学の様子

●留萌ダム水源地域ビジョン検討会のメンバー

No.	氏名	ふりがな
1	石井　清	いしい　　きよし
2	近江　美智子	おうみ　　みちこ
3	岡田　智子	おかだ　　さとこ
4	角谷　亨仙	かどや　　ゆきひさ
5	蔵根　倫美	くらね　　ともみ
6	下家　幸代	げや　　さちよ
7	佐藤　太紀	さとう　　たいき
8	真田　哲雄	さなだ　　てつお
9	宍戸　隆好	ししど　　たかよし
10	高橋　信郎	たかはし　のぶお
11	田巻　美恵子	たまき　　みえこ
12	出村　義三	でむら　　よしぞう
13	富田　直樹	とみた　　なおき
14	中尾　淳	なかお　　あつし
15	廣島　昌美	ひろしま　よしみ
16	飛渡　秀穂	ひわたり　しゅうほ
17	松本　衆司	まつもと　しゅうじ
18	村山　ゆかり	むらやま　ゆかり
19	室田　強志	むろた　　つよし
20	森　　義和	もり　　よしかず
21	岡田　尋子	おかだ　　ひろこ
22	渡辺　一夫	わたなべ　かずお
23	渡會　一	わたらい　まこと

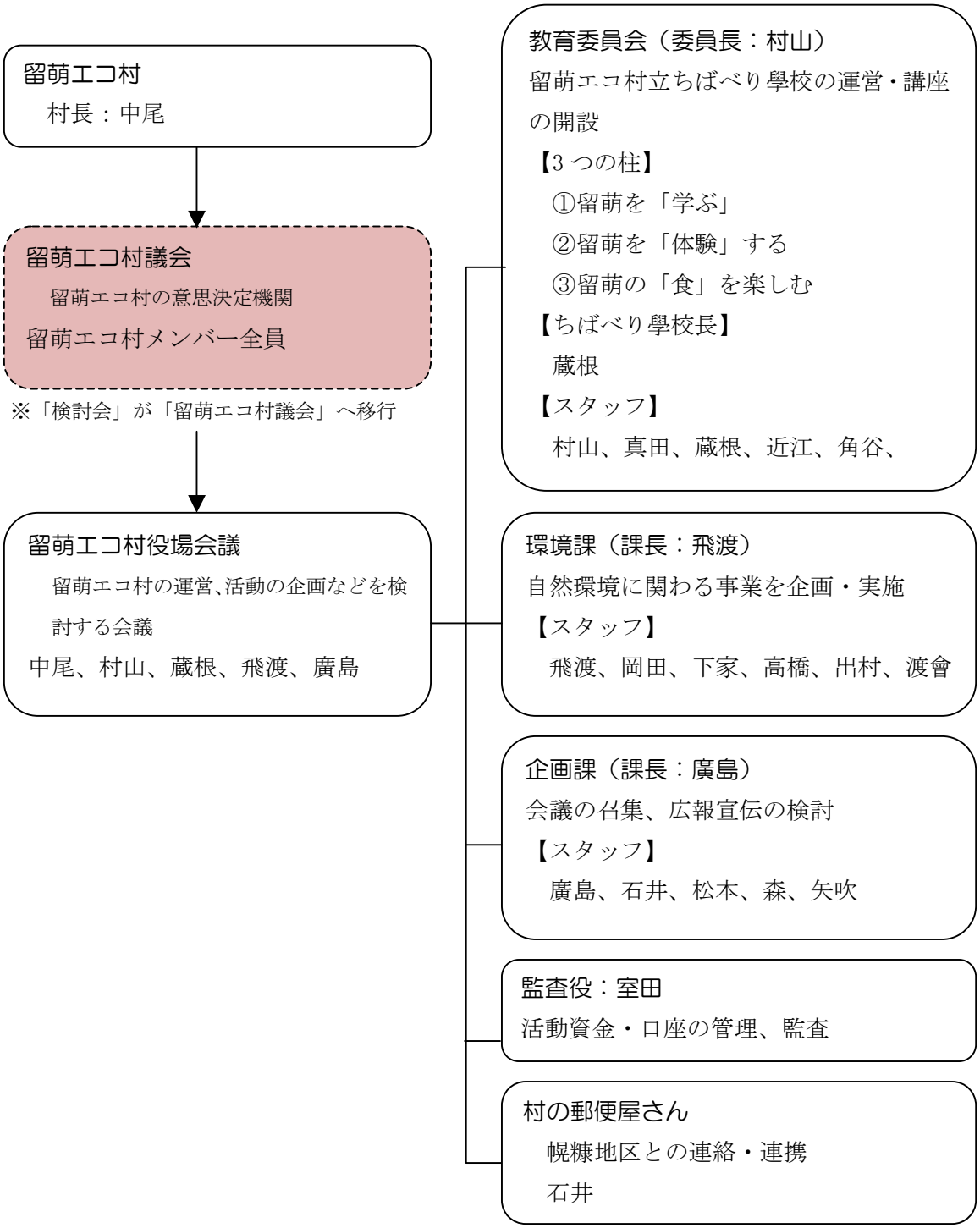
●留萌ダム水源地域ビジョン検討会事務局及びオブザーバー

関係機関	
事務局	留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
オブザーバー	留萌開発建設部　治水課、留萌開発事務所
	留萌市　産業建設部都市整備課
	北海道留萌支庁　地域振興部地域政策課
	留萌南部森林管理署

10. これからの留萌エコ村

●留萌エコ村の推進体制

留萌エコ村の推進体制は以下のとおりです。教育委員会・環境課・企画課などを設けて役割分担を行います。実践活動などの検討は、村長と各課の課長による留萌エコ村役場会議で留萌エコ村の運営・企画などを検討して、留萌エコ村メンバーが全員出席する留萌エコ村議会で意思決定を行います。



●留萌エコ村のメンバー

留萌エコ村のメンバーは、留萌エコ村構想を検討してきた留萌ダム水源地域ビジョン検討会のメンバーによって構成されています。

所属	役職	名前
留萌エコ村長		中尾（なかお） 淳（あつし）
教育委員会	留萌エコ村立ちばべり學校長	蔵根（くらね） 倫美（ともみ）
	委員長	村山（むらやま） ゆかり
		近江（おうみ） 美智子（みちこ）
		角谷（かどや） 亨仙（ゆきひさ）
		真田（さなだ） 哲雄（てつお）
		田巻（たまき） 美恵子（みえこ）
環境課	課長	飛渡（ひわたり） 秀穂（しゅうほ）
		下家（げや） 幸代（さちよ）
		岡田（おかだ） 智子（さとこ）
		高橋（たかはし） 信郎（のぶお）
		出村（でむら） 義三（よしぞう）
		渡會（わたらい） 一（まこと）
企課課	課長	廣島（ひろしま） 昌美（よしみ）
		石井（いしい） 清（きよし）
		森（もり） 義和（よしかず）
		松本（まつもと） 衆司（しゅうじ）
		岡田（おかだ） 尋子（ひろこ）
村民		富田（とみた） 直樹（なおき）
		佐藤（さとう） 太紀（たいき）
		宍戸（ししど） 隆好（たかよし）
		室田（むろた） 強志（つよし）
		渡辺（わたなべ） 一夫（かずお）

●今後の留萌エコ村

〇人材の確保

→活動の一般参加者などに対して、構成員を募集するなどして、人材を確保することが必要です。

〇コミュニティビジネス化の検討

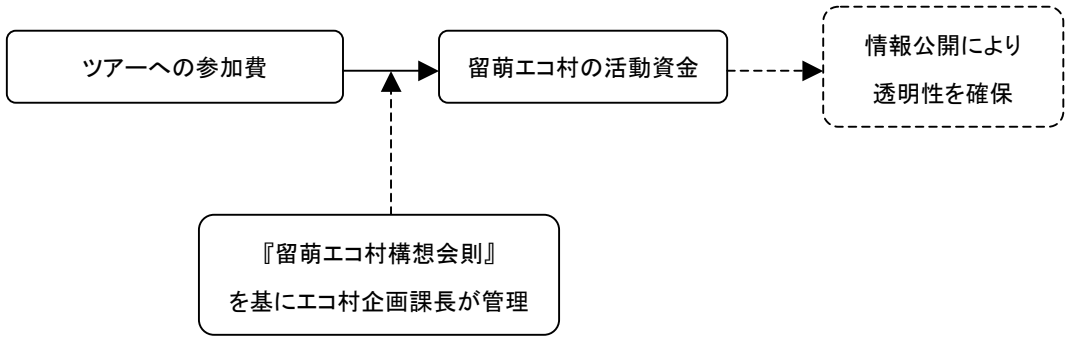
→持続的な活動のためには、収益性の確保が必要となり、コミュニティビジネスが必要になります。留萌川流域に存在する地域資源を商品化や、流域の人材も地域資源としてとらえ、中長期的視点で取り組むことが求められます。

【参考資料】　留萌エコ村の活動資金

留萌水源地域ビジョン検討会では、行政の補助金や助成金を前提としないで委員の意思で継続した活動を行いたいとの要望がありました。そこで、留萌エコ村は活動の自立を目指し、将来的にはツアー（山菜取りやソバ打ちなど）への参加を有料（参加費 2,000～3,000 円）とすることで活動資金を確保することにしました。

積み立てた留萌エコ村の活動資金は、検討会で作成した活動資金の運用や口座の開設のためにつくった会則を基に留萌エコ村監査役が通帳管理します。収支については情報を公開することで使途の透明性を確保します。

■活動資金の流れ



留萌ダム水源地域ビジョン検討会事務局

氏　名	ふりがな	所　　属	年度
諏訪　義雄	すわ　よしお	留萌ダム建設事業所　所長	H18～19
矢部　浩規	やべ　ひろき	留萌ダム建設事業所　所長	H20
中山　惇	なかやま あつし	留萌ダム建設事業所　副長	H18～20
吉田　登志正	よしだ　としまさ	留萌ダム建設事業所　副長	H18～20
嶋宮　政樹	しまみや　まさき	留萌ダム建設事業所　工務班長	H18～19
橘内　英治	きつない えいじ	留萌ダム建設事業所　工務係長	H18～20
桃枝　英幸	もものえ　ひでゆき	留萌ダム建設事業所　第一工務係長	H18～20
亀井　尚	かめい　ひさし	留萌ダム建設事業所　環境係長	H18
伊藤　昌弘	いとう まさひろ	留萌ダム建設事業所　環境係長	H19～20
岡本　政行	おかもと まさゆき	留萌ダム建設事業所　調査設計班長	H18～20
若松　延幸	わかまつ のぶゆき	留萌ダム建設事業所　計画係長	H18～20
西田　貴博	にしだ　たかひろ	留萌ダム建設事業所　計画係技官	H18
金谷　将志	かなや まさし	留萌ダム建設事業所　計画係技官	H19～20

2006年11月発行
第１号

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

「第1回留萌ダム水源地域ビジョン検討会」を開催しました！

平成18年10月24日（火）18時より、港南コミュニティーセンターで「第1回留萌ダム水源地域ビジョン検討会」が開催されました。検討会には、19名の検討委員と関係行政機関職員が参加し、会場は初回のほどよい緊張感と熱気に包まれました。

まず、諏訪義雄留萌ダム建設事業所長から開催の挨拶があり、その後、留萌ダム建設事業所職員から留萌ダム水源地域ビジョンの目的や進め方、留萌ダムの概要について説明を行いました。

その後、検討委員はもちろん、会場にいる人全員より、参加の動機などの一言を添えた自己紹介を行いました。

休憩を挟み、検討委員が3つの班に分かれて、留萌ダムへの思いや今後展開していきたい活動等について意見交換を行いました。

▲説明の様子

▲活発な質疑の様子

▲自己紹介の様子

留萌ダム水源地域ビジョン検討会の目的と構成

●目　的

「留萌ダム水源地域ビジョン」とは、留萌ダムが建設される水源地域（チバベリ川）及び流域（留萌川）の自治体である「留萌市」、そこで生活する「留萌市民」が留萌ダムを建設・管理する「留萌開発建設部」と共同で策定する水源地域活性化のための行動計画です。

留萌ダム水源地域ビジョン検討会では、ダム周辺の森林や道路を管理する「留萌南部森林管理署」、「留萌支庁」と連携し、水源地域活性化のための行動計画について議論していく予定です。

●構　成

・検討会委員27名（一般公募による留萌市民）
・留萌開発建設部（ダム事業者、河川管理者）
・留萌市役所（水源地および流域自治体）
・留萌南部森林管理署（国有林管理者）
・留萌支庁（道道留萌北竜線管理者）

班会議の中で出された主な意見

初回にもかかわらず委員による活発な意見交換が行われ、あっという間に会議予定時間である2時間が経過してしまいました、主な意見を以下に紹介します。

緑化の推進・生物の生息環境への配慮が必要である

・ダムができることで影響を受ける生物等への配慮が必要である。
・ダム周辺環境の緑化を進める事が必要である。

▲班会議の様子

ダムや周辺環境を地域資源として役立つもの・活用できるものにしたい

・自然を活かし、子どものための環境教育や市民が楽しめる場としたい。
・あまり知られていない地域の魅力の適切な方法での提供が望まれる。
・水辺の魅力を活かした活動を行いたい。
・人々が楽しめる場となると良い。
・ダムを活用したコミュニティビジネスを展開したい（ロケ地誘致など）。
・ダム事業が負の遺産にならないようにしていきたい。

市民を巻き込んだ事業展開が必要である

・ダム事業に市民が関わり、そのような活動を通じまちを元気にしたい。
・湖底となるチバベリにすんでいた人たちを語りべとしてはどうか。
・活動を通じ、地域に貢献している、地域が潤っていると感じることで、心の豊かさ（精神面での利益）につなげていけると良い。
・地域資源についての情報提供が必要である。

今後の予定

第2回留萌ダム水源地域ビジョン検討会は、12月中旬に開催予定です。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：環境係）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番
電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

2007 年 1 月発行

第 2 号

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

「第 2 回留萌ダム水源地域ビジョン検討会」開催しました。

平成 18 年 12 月 20 日（水）18 時より、留萌市中央公民館で「第 2 回留萌ダム水源地域ビジョン検討会」が開催されました。

はじめに、全体会議形式で前回の内容の確認や質問への回答、留萌ダム周辺整備計画（案）について説明を行いました。そして、後半は検討委員が 3 つの班に分かれて意見交換を行いました。

検討会には 14 名の検討委員と関係行政機関が参加し、師走の寒さを吹き飛ばすほどの熱気に包まれながら、20 時 50 分に終了しました。

▲全体会議の様子

▲留萌ダム周辺の生物情報やチバベリの空撮写真を会場に貼り出しました。

◆第 2 回検討会プログラム◆

1．開　会
2．第 1 回検討会について
（1）検討会の振り返り
（2）検討会で出された質問への回答
3．留萌ダム周辺環境整備について
4．意見交換（班会議）

意見交換のテーマ
留萌ダム及びその周辺を地域の資源として
・「こんなふうに使っていきたい」という具体的なアイデイア
・「ダム周辺環境整備」の具体的なアイディア

5．質問事項の確認
6．閉　会

留萌ダム水源地域ビジョン検討会の目的と構成

●目　的

「留萌ダム水源地域ビジョン」とは、留萌ダムが建設される水源地域（チバベリ川）及び流域（留萌川）の自治体である「留萌市」、そこで生活する「留萌市民」が留萌ダムを建設・管理する「留萌開発建設部」と共同で策定する水源地域活性化のための行動計画です。

留萌ダム水源地域ビジョン検討会では、ダム周辺の森林や道路を管理する「留萌南部森林管理署」、「留萌支庁」と連携し、水源地域活性化のための行動計画について議論していく予定です。

●構　成

・検討会委員 27 名（一般公募による留萌市民）
・留萌開発建設部（ダム事業者、河川管理者）
・留萌市役所（水源地及び流域自治体）
・留萌南部森林管理署（国有林管理者）
・留萌支庁（道道留萌北竜線管理者）

班会議の中で出た主な意見

ダム周辺地域でしたいこと、できること

・以下のような案が出されました。
水辺をつなぐサイクリングロード、展望台、クライミングウォール、自然を活かした遊歩道、広場、浮き桟橋等

▲いろいろな年代の委員が参加しています。

今後の検討会で目指すこと、考えること

■人が関わる・訪れる魅力のあるものに！
・学校の授業で利用したり、家族で定期的に訪れたくなる魅力ある空間に。
・市民がかかわるスペースが設けられるとよい。
■水辺・自然環境を生かしたものに！
・安らぎを与える水辺や周辺の自然環境を生かしたもの・景観を楽しめるものとなるとよい。
■利益を生むものも必要！
・ビジネスにつながるようなアイディアを出していかなければならない。
■維持管理にお金がかからないように！
・維持管理に配慮して手間のかからない設備になるような工夫が必要である。

▲活発に意見交換が行われました。

その他

・留萌ダムに関する市民理解がまだまだ浅いので、積極的にわかりやすい情報を提供して欲しい。
・理解が得られれば市民の協力も得やすいものになると思われる。
・ダムサイト周辺は高規格道路の中継地点となるため、近隣町村との連携を図るべきである。
・魚類の放流・養殖についての賛否意見
・自然が移り変わる景観を楽しむ事が重要である。

▲最後に班会議の結果を発表しました。

今後の予定

第 3 回留萌ダム水源地域ビジョン検討会は、2 月下旬～3 月上旬に開催予定です。

今後は、**留萌ダム周辺での活動や取り組みについて、より具体的なプランとして**考えていきたいと思います。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：環境係）
〒077-0037 北海道留萌市沖見町３丁目 91 番
電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

2007年4月発行
第3号

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

2月28日、「第3回留萌ダム水源地域ビジョン検討会」を開催しました。

・開催日時：平成19年2月28日(木)　18:00～20:15
・開催場所：留萌市中央公民館
・参加者数：検討委員13名

はじめに、全体会議で、「水源地域ビジョンの目的や進め方」についての再説明と、前回の検討会でいただいた質問に対し回答を行いました。

その後、休憩を挟んで、約1時間程度、3つの班に分かれて班会議を行いました。

これまで2回にわたる検討会でだされた、各委員の興味のある活動や関心事の意見を参考に、班会議のテーマは、「今後、水源地域ビジョンで具体的に活動として取り組んでいけそうなものは？」としました。

「水源地域ビジョン」ってなんだろう？

これまで2回の会議を行っていましたが、水源地域ビジョンとはどのようなものか、ということはなかなか難しく、よくわからないというご意見が聞かれたため、全体会議の中で、改めて、水源地域ビジョンの目的や進め方について説明をしました。

水源地域ビジョンとは、「留萌ダムができる地域の皆さんが、ダムをうまく活用し、地域が元気になっていけるように、地域の皆さんと行政が協力して知恵を出し合い、どんなことができそうか、役割分担はどうしたらよいか等を考え、「ビジョン」＝「計画」をつくって実行していく」ということです。

この計画づくりは、市民の皆さんや関係行政機関が協力してつくっていきます。平成18年度から検討を始めましたが、計画は平成19年度末までにまとめる予定です。委員の皆さんのご意見をうかがいながら進め方も検討していきます。

◆第3回検討会プログラム◆

1．開　会
2．水源地域ビジョンについて
3．前回いただいた質問への回答
　①一酸化鉄はどうなった？
　②周辺整備施設の維持費はどれくらい？
　③魚道はつくるの？
　④コミュニティビジネスの具体案
　⑤ダムが完成したら幌糠の気温はどうなる？
　⑥ダムっていくら？（市民一人あたりの負担）
4．本日の意見のテーマについて
　これまでの検討会で出されたキーワードを参考に
　「具体的に活動として取り組んでいけそうなもの」
5．意見交換
6．今後のスケジュールについて
7．閉　会

こんな活動ができるんじゃない？～班会議より

班会議の中で出された意見の分類として、
①自然の回復・復元につながる活動
②効果的な情報発信
③ダムの見学会など人が集まるようなイベント
④ボランティア・ガイドの育成
⑤食をテーマにしたツアー
⑥名物となるものの開発

などの意見が出されました。

平成18年度の3回の検討を通じ、ビジョンとしての取り組みの方向性が見えてきました。平成19年度は、実践することで課題を把握したりアイディアを磨いたり、ビジョンづくりを進めていきます。

以下に各班の主な意見を紹介します。

▲和やかなムードでいい笑顔がみられました！

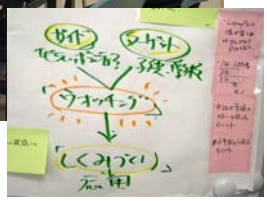
班会議で出された主な意見

A班

●取り組みたい活動の方向
・自然を復元していく取り組みを段階（個人、少人数の仲間、組織）をふんでいく。
・情報発信（魅力の発信）の工夫が必要である。

●主な意見
・ダムの建設に伴い壊してしまった自然を保護・復元していくことが大切である。
・人が憩えるように最低限の施設と、ダムを活用する人をサポートできるような体制・システムがあるとよい。
・周辺環境の魅力の発信の仕方を工夫することが必要である。

▲具体的な活動について話し合うと、課題も見えてきます。



▲少しずつ、委員の皆さんの関心ある活動が見えてきました

B班

●取り組みたい活動の方向
・活動のテーマを「市民が関われるダム」「市民がふれあうダム」「市民を育てるダム」とする。
・子ども・学校を対象に、親子に活動を広げる。
・まずはダムウォッチングを試験的に行いその仕組みを他に応用していく。

●主な意見
・活動主体として、検討会メンバー・地域の住民をガイド役やボランティアとして育成してはどうか。
・ダムは立地条件（まちから近いなど）がよいので活動する上で期待できる。
・ダムができて人が集まることで生じる問題についても考える必要がある。

C班

●取り組みたい活動の方向
・食ツーリズムのようなツアーならできる。地元のもので名物をつくる
・しっかりとビジネスになるものを考える。

●主な意見
・ダムだけでは人は呼べない。箱物をつくるのではなく、素敵だと思うもの、例えば、景観や生きものなど自然を活かすことが大事である。
・次世代に夢や希望が残るように。
・留萌に海を見に来る人はいる。ダムが山や川の自然の魅力や利用を伝える場所になるのではないか。
・食や活動の拠点があってダムに立ち寄り、ついでに海まで足を伸ばす形になるとよい。
・植樹する場合、造園的なものではなく自然に近い形にするほうがよい。

▲活動を展開していくためには、必要な情報がたくさんあるという意見が出されました。

次回のお知らせ：第４回留萌ダム水源地域ビジョン検討会は６月頃の開催を予定しています。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ
国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：工務係）
〒077-0037 北海道留萌市沖見町３丁目91番　電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

vol.4　2007年7月発行

今年は「やってみよう！」がキーワード！

7月1日、第4回留萌ダム水源地域ビジョン検討会（現地体験会）が、13名の委員の参加のもと、開催されました。
建設中のダムの見学、蕎麦うち体験、検討会と、盛りだくさんの1日となりました！

発見！留萌ダムの魅力！

ダムの見学は、ダム堤体とダム下の環境整備地区、マルチング・混植箇所、そして、ビオトープの3箇所。
ダム堤体の見学では「ロックは何かで固めているの？」など、次々と熱心な質問があがっていました。

マルチング・混植*箇所では、地元の小学生が植えた苗木を見ながら説明を受けました。植樹したものは、あまり手をかけない方がたくましい木に育つ、という話でした。植物に詳しい検討委員や、留萌南部森林管理署の方にも解説いただき、なるほど～！という声が聞かれました。

＊マルチング：植えた苗の根元をワラ・チップなどで覆うこと。色々な効果はありますが、雑草などが生えにくくなるため苗が育ちやすくなります。
＊混植：自然の世界と同じように色々な種類の樹木を混ぜて植えて競争させることで強い木が残っていきます。

森の魅力・木々のたくましさに感動！
子どもたちと共に大きくなぁれ！

生物が生息しやすいような工夫がされていることを知りました。

ビオトープでは留萌ダムができることで影響を受ける生き物達の生息場所が少しでもよいものになるよう、色々な工夫がされていることを知りました。もっと市民に向けたPRをしていくべきという意見が出されました。

楽しい！おいしい！幌糠産蕎麦うち体験

お昼は、うつべえ会の皆さんにご協力いただき、蕎麦をうつ各工程を体験させていただきました。おっかなびっくり、初めての蕎麦うち体験に笑い声あふれる会場となりました。もちろん、うつべえ会の皆さん、そして、参加者の皆さんがうった蕎麦は、み～んな、胃袋に収まりました。

地元にある美味しいものの再発見にもなったのではないでしょうか？

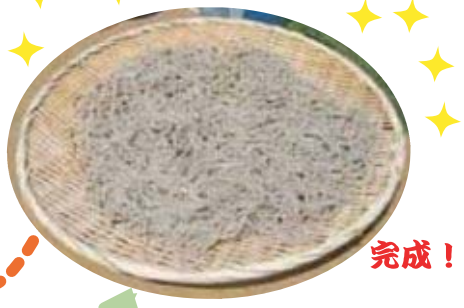
①粉をよく混ぜ生地づくり

②手でのばしていって

③さらに薄く均等にのばし

④細く均等に切るのは難しい！

⑤たっぷりのお湯でゆでて



あっと言う間にザルが空いていきました！

「できることからやってみる」が留萌式！

今回の検討会では、今年度、どのように検討会を進めていくか話し合いました。
そこで以下が確認されました。

- **今年度は取り組めそうなこと、できそうなことから実践してみる**
- **その過程・結果を検証することにより、現実的な実行性のある「留萌ダム水源地域ビジョン」となるようにする**
- **詳細な検討を行うため、検討委員有志による企画会議を設置する**
- **企画会議で検討した結果を検討会で提案し、更に検討していく**

できることから始め、市民の皆さんが関わる場をどんどんつくっていくこと～今年の検討会は、「動きながら考える」という姿勢で進めていくことになります。次回検討会は、検討会委員有志による企画会議で今年度の実践活動について打ち合わせ（企画内容・時期など）の上、開催します。企画会議の開催日程は検討委員の皆さん全員にご案内します。ご都合のつく方はぜひご参加下さい！

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：工務班）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

vol.5　2007年9月発行

第５回検討会を開催しました！

9月13日、第5回検討会が留萌産業会館小ホールで開催されました。ご案内が直前だったこともあり、検討委員の方の出席が少なかったのですが、秋の実践活動について、企画会議で出された案をもとに、より具体の話し合いを行いました。

秋の実践活動についての提案事項

2回の企画会議で検討された以下の内容について説明があり、それを受けて、意見交換を行いました。

～企画会議からの提案～

企画会議で案をつくりました！

■**開催日**　10月13日（土曜日）

■**テーマ**「留萌エコ村づくり・拠点づくり！」

■**活動案**

- 「知る」　留萌ダムについての学習
- 「体験する」リースづくり、拠点づくり（2グループに分かれて実施）
- 「食を楽しむ」箸づくり（当日使うために）、旬の地元の素材を使って。

出された意見については、裏面をご覧下さい！

報告～検討委員の交代について

幌糠地区の岡村委員より、本人が検討会に出席することが難しいことから、代理として同地区の室田さんに検討委員をお願いしたいとの提案がダム建設事業所にありました。第5回検討会の中で報告したところ、参加された検討委員の皆さんから同意を得ることができましたのでご報告します。

今後、体調が悪いなどやむをえない事情で検討会に出られない方がでてきたり、交代があった場合も、いつでも検討会には戻ってきていただけるように、留萌ダム水源地域ビジョンの取り組みについては、お知らせをしていきます！

楽しいこと、第1弾！

10/13（土）

拠点づくり

・実践活動当日に壊さなくてすむようなもの
・雨風がしのげるもの
・材料がどうなるかで造れる小屋が決まる。

＊都合のよい時にいって継続して造れるようにしたい。そのためには道路から近く、長期間存置して問題ない場所の必要がある。
＊長期的な展望として、木を植えて育ててそれを使えるようになると良い。

食!

◎箸づくり
・木の枝などを使って活動当日だけ使えるようなもので良いのではないか？
・長期間使えるような箸を作るには事前準備が結構かかる。

◎美味しいものメニュー
・現地で調達可能な材料だと限られてしまうので、幌糠などの農産物も利用していくことが必要ではないか。
・材料としては、きのこ、くるみ、オオバユリ、留萌のお米、カボチャ、ヤマブドウなど

＊長期的な活動を考えて手をかけずに育つものを育てて、それを収穫して活用してはどうか？

リースづくり

・現地で材料を手に入れることが可能だと思う
・拠点づくりの現場でリース素材をより分けることもできる

その他の意見

・活動の参加対象は、今回は初回ということで、検討委員＋家族やお友達程度。
（大々的な広報活動は行わない）
・活動では「知恵」を学ぶ事も大事です。
・活動を通じ、水源地域ビジョンのコンセプト、方向性を考えていく必要もありますね。

今後については、より詳細についてつめた上で皆さんにご案内します。

実践活動の前に、一度企画会議を開きますので、ぜひ、皆さん、ご出席下さい！

皆さんのアイディアが実現する第1弾。一緒に楽しんでいきましょう！

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：工務班）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン
秋の実践活動だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

vol.6 2007年10月発行

楽しかった！美味しかった！実践活動！

10月13日、天気予報が嬉しい方に外れた小春日和の中、検討委員とそのご友人の合計9名参加のもと、検討会メンバー企画による初の実践活動が行われました。

初回ということでかなりあわただしい準備となりましたが、この皆さんのウフフの笑顔が全てを物語ってくれていますよね？

今回のニュースレターでは、楽しくって美味しかった活動の様子をお伝えします！

それぞれが「できることをする」が活動を支える

朝、8時15分。食の世話人である近江さんのお店前。既に今回の食の為に貸し出してくれる使い込まれたガス釜も用意されていました。手には「おいしいお米にあうかなと思って、昨日作ったのよ！」と愛情のいっぱい詰まったお漬物が。その頃、会場となるダム建設現場では、拠点づくりの際に作業しやすいようにと、世話人の宍戸さんが奮闘。それに拠点づくりに使う材木を飛渡さんが運搬してきたり。

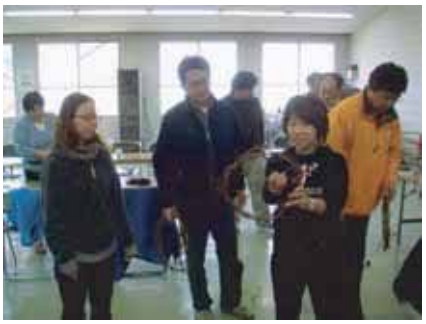
昼食の鍋の材料の野菜のほとんどは、検討委員の中尾さんが「活動の盛会を願って」と提供してくれたものでした。他にも多くの検討委員の皆さんが見えないところで今回の活動を支えていました。

検討委員それぞれに事情があり、事前準備を手伝える人もいれば、当日しかこられない人、当日も参加できない人、色々いるわけです。でも、みんなが楽しく元気になる活動をしていきたい、という想いは一緒。

「それぞれができることをやってみる」の第1弾。

この経験を、ダムを活用して留萌が元気になるような「留萌ダム水源地域ビジョン」の検討にいかしていきましょう！

＊「しばらく検討会に顔出ししていないから行きにくいなぁ」と思っている委員の皆さん！そんなことは全然問題なし。留萌が元気になることを考えるのに遅すぎるなんてありません！
ぜひ、顔出ししてください。待ってます。



今回の活動は検討委員の得意分野を生かして行われました。
秋の工作は村山さん指導で、リースづくりを楽しみました。

盛りだくさんの1日でした

ダム建設現場で、今日の流れを確認。やっぱり寒い！

お昼の食材のキノコ探しです！
みんなの腕にお昼ご飯がかかってる？！

これは食べられるかなぁ～？

これは大丈夫！

秋の工作の素材も現地で調達！

待ちに待ったお昼！全て完売です！

留萌自慢の室田さんのお米！
『ななつぼし』

近江さんの技＆愛情で
オイシイ収穫鍋のできあがり！

中尾さん提供の
安心＆オイシイ野菜たち！

みんなでとった
キノコ

食材のご紹介！

飛渡さんの「べこもち」！
優しい甘さに思わずニッコリ。

森の素材を使ってリースづくり。
皆さんのセンスがキラリ！

参加者7名からダムに関する話題提供がありました。

参加者の声～アンケートより

・晴天の小春日和でよかった。野遊びを満喫できました。
・山の木立の中に入りこむ等は何十年振りで、足の裏に感じる土の柔らかさ、空気のおいしさ、これらがとても新鮮でした。
・室田さん家の新米「ななつぼし」を食べることができて幸運でした。中尾さんにも感謝！！
・リース作りは初めてでしたが楽しかった。

今後について

今回の実践活動を振り返り、反省点等についてきちんと検証した上で、留萌ダム水源地域ビジョンの行動計画について検討行います。11月中旬～下旬を予定していますが、今後の日程については、また改めてご相談させてもらいます。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：工務班）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

vol.7　2008年2月発行

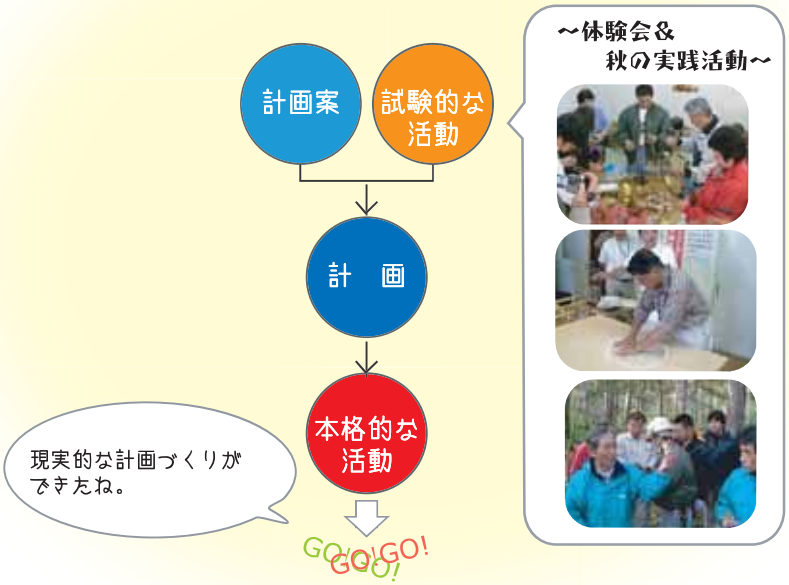
第６回検討会を開催しました！

1月24日、留萌中央公民館で第6回検討会が開催されました。
9月開催の第5回検討会の後、3回の企画会議をはさみ久しぶりの検討会でしたが、14名の委員の皆さんに参加いただき、活発な話し合いがされました。今までの検討会とは違い、資料づくりや説明・進行も委員が行う、委員主体の検討会となりました。
今回の話題は、これまでの活動や企画会議等を通じて考えた留萌エコ村構想の案についてです。

留萌ダム水源地域ビジョン＝留萌エコ村構想

そもそも、この「留萌ダム水源地域ビジョン」とは、「ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化のために、水源地域ごとにダム管理者、自治体、地域住民等が共同で策定する行動計画」のことです。
留萌ダム水源地域ビジョンでは、計画を考えることと並行して、計画に盛り込みたい活動を試験的に実践して、その結果を計画に反映させていくということで進めてきました。
年度内にこの構想についてある程度方向性を出すことを目標として、企画会議の中で話し合われてきた構想の原案が委員より提案されました。

－留萌ダム水源地域ビジョン＝エコ村構想検討の進め方－



企画の概要

留萌ダム周辺の自然を活かしながら、これまで取り組んできている「タネとり探検隊」の事業やさまざまな自然体験ツアーなどの交流事業、天然資源を活用した商品開発事業の可能性を探るなど一人一人が幅広い分野でエコ事業を実施する事が留萌エコ村の目指す姿です。

活動の内容

・水の大切さ、ダムの必要性を学び広く周知する
・留萌ダムに関連する歴史的な背景から留萌を知り伝承する
・留萌ダム流域（上流から下流）の一体化した利活用事業で留萌を売り込む（観光事業）
・自然空間の中での遊び心を育み、行政や企業との連携を図りながら、人に優しい自然環境を維持する取り組みを継続する
・バイオエネルギー開発についての調査・研究

エコ村憲章

1. ふるさとを探検しよう
1. 水環境を保全しよう
1. 自然空環で遊び、感じよう

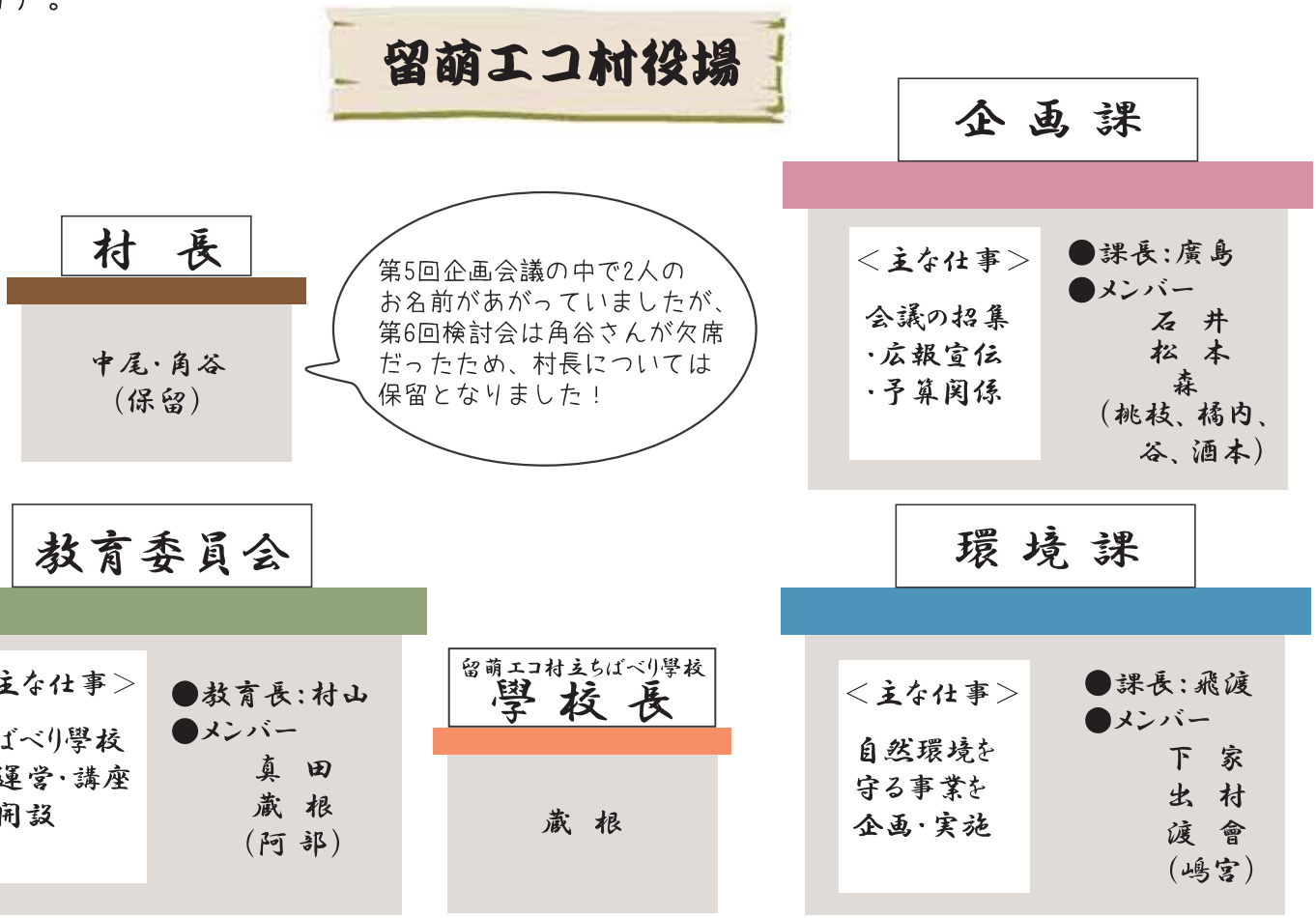
留萌エコ村立ちばべり學校　校訓

「学ぶ」
「体験する」
「食を楽しむ」

構想の実現に向けて～担当を決めてみよう！

検討会・企画会議を重ねる中で、ダム周辺の環境保全や楽しく交流する活動を地域全体に広げていきたい思いから「留萌エコ村構想」案が提案されました。

これらを実現していくためには、みんなで役割を決めて活動を展開していく必要がありますよね？そこで、第5回企画会議＆第6回検討会に出席した皆さんのそれぞれの関わってみたい「エコ村」の部署を聞いてみました（メンバーの名前のうち（　　）内は事務局メンバーです）。



今回欠席された検討委員のみなさんは、どんなことに興味をお持ちでしょうか？

やってみたいことをこの「エコ村構想」の中で実現していくために、まだまだみんなで相談して、決めていくべきことがたくさんありそうですね。

活動が始まったら、よりたくさんの市民の皆さんが楽しみながら関われるような参加の形も考えていかなくっちゃ！・・・そんな意見も出されていました。

今後の予定～役場会議で案を練ります！

今回、検討会の中では留萌エコ村構想（案）についての提案がありましたが、せっかく留萌エコ村の組織が形づくられてきたので、もう少し、役場会議（代表者会議）で今後のスケジュールなども具体的に考えてみよう！となりました（2月18日19:00～予定）。そこで、エコ村構想について骨格を固め、また検討会の中で提案し議論して行く予定です。

役場会議の結果について、又、ニュースレターでお知らせします！

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：工務班）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

vol.8　2008年3月発行

第7回検討会を開催しました！

3月16日（日）、第7回検討会が留萌中央公民館で開催されました。

今年度最後となる検討会では、企画会議などで検討してきた留萌エコ村構想や、今後のスケジュールなどについて話し合いを行いました。

今後は、8月までに「留萌エコ村構想」をとりまとめ提言することや、ちばべりの歴史・文化についても資料としてとりまとめることなどが決まりました。

また、春の活動として「留萌川の川下り」の提案もなされました。

留萌エコ村構想の組織構成

今回の検討会で、留萌エコ村の村長が中尾さんに決まりました！

また、前回のニュースレターでお伝えできなかった、所属部署が未定だった検討委員の方にも確認をとり、企画課・教育委員会・環境課、それぞれで活動を展開していくメンバーをお知らせします。（メンバーの名前のうち（　　）内は事務局メンバーです）。

留萌エコ村役場

まだ所属部署の確認が取れていない委員の方は、今後再度確認していく予定です。

村　長
中尾

留萌エコ村立ちばべり學校 學校長
蔵根

企画課
＜主な仕事＞
会議の招集
・広報宣伝
・予算関係

●課長：廣島
●メンバー
石井　松本
森　矢吹
（桃枝、橘内、谷　、酒本）

教育委員会
＜主な仕事＞
ちばべり學校の運営・講座の開設

●教育長：村山
●メンバー
真田　蔵根
近江　角谷
田巻　室田
（阿部）

環境課
＜主な仕事＞
自然環境を守る事業を企画・実施

●課長：飛渡
●メンバー
岡田　下家
高橋　出村
渡會（嶋宮）

村の郵便屋さん
石井

冬の活動～陶芸体験！何ができるかな？

まずは、ここから・・・

粘土をまぁるくします。

こんな道具を使って
好きな形に整えます。

真ん中に穴を空けて、形を作っていきます。

始める前に、先生のお手本を。

みなさん真剣そのもの。
何を作っているのでしょうね？

形ができてきました！花器かな？

完成！！

みなさんステキな器が出来上がりました！
あとは焼き上がりを待つだけ！

陶芸教室の後は、嶋宮班長と桃枝係長お手製の手打ちそばを昼食に食べました！
美味しかったですね。

3月16日（日）午前中に、冬の活動として陶芸教室を開催しました。今回は陶芸の先生に教えてもらいながら、みなさん思い思いの形を作っていきました。

今回使用した粘土には、留萌ダムの土を約2割混ぜてあり、みなさん楽しんで陶芸を体験していました。

今後の予定～役場会議で春の活動について検討！

今回、検討会の中で春の活動（川下り）についての提案がありました。そこで、まずは事務局で春の活動が実際にできるものなのかを確認し、村役場会議（代表者会議）にて春の活動について話し合って行く予定です。

村役場会議の結果については、また改めてお知らせします！

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：工務班）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン
春の実践活動だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
fax:0164-42-0195

vol.9　2008年6月発行

今年度最初の活動が始まりました！！

留萌エコ村では、留萌ダム周辺及び留萌の地域資源を活かしながら四季折々の活動を行っていくことが目標に掲げられています。

そこで6月15日（日）に、春の活動として「春のハイキング」を行いました。

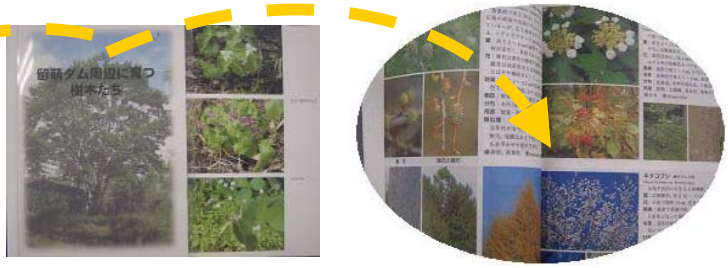
ハイキングコースは、留萌ダム周辺の留萌南部森林管理署さんで管理している林道にて、検討委員とそのご友人、家族の合計8人参加のもと行われました。

今回はダム周辺の自然の中をエコ村環境課長のガイド付きで散策し、色々なものが発見できましたのでその様子をお知らせします。（残念ながら山菜はありませんでしたが・・・　m(_ _)m　）

環境課が動きました？！

今回は、環境課長の飛渡さんが特技を活かし、事前にダム周辺の植物等のガイドブックを作成してくれました！！

（見事なできばえです!!　お店で買ったら、いくらぐらいするんだろう…？）



快晴の中、森林浴をしながら・・・

留萌南部森林管理署の高橋さんから、スタート前に林道の詳しい説明をいただきました。

いざ出発！　天気が良くて気持ちいいね！　何か見つけられるかな?

皆さん木の上を見ていますが、何か見つけたのでしょうか？

ホウの木の種を発見！！
枝の先になるんですね…

ヘビまで見つけてしまいました！！

草わらの中に鳥の巣が！！
こんな低いところにも作るんだね？

何かを見つけて説明しています！？
（蜘蛛の巣…？）

天気が良かったので、お弁当は途中の広場で！(^^)！

『エコ村開村式』などを話し合い！！

午後から行った検討会では、留萌エコ村開村式へ向けた大まかな話をしました。
意見として次のような提案がありました。

- 留萌大洪水から20年ということもあり、開村式では「ダムを学ぶ」という座学的なものがあったら良いと思う。
- ある程度エコ村の所属が決まってきたので、今後は各課で会議ができれば良いと思う。
- 会則（案）について次回の会議で皆さんと話をしたい。

以上の内容は次回の村役場会議等で話し合っていく他、春のハイキングの案内で試験的に使用したロゴマーク（お気付きの方もいらっしゃると思いますが、検討委員の角谷氏デザイン）や消印に使用した風景印についても意見を聞きながら考えていく予定です。会議の案内は、また改めてお知らせします。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：えん堤班　工務係）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番地　電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
fax:0164-42-0195

vol.10　2008年9月発行

第9回村役場会議を開催しました！！

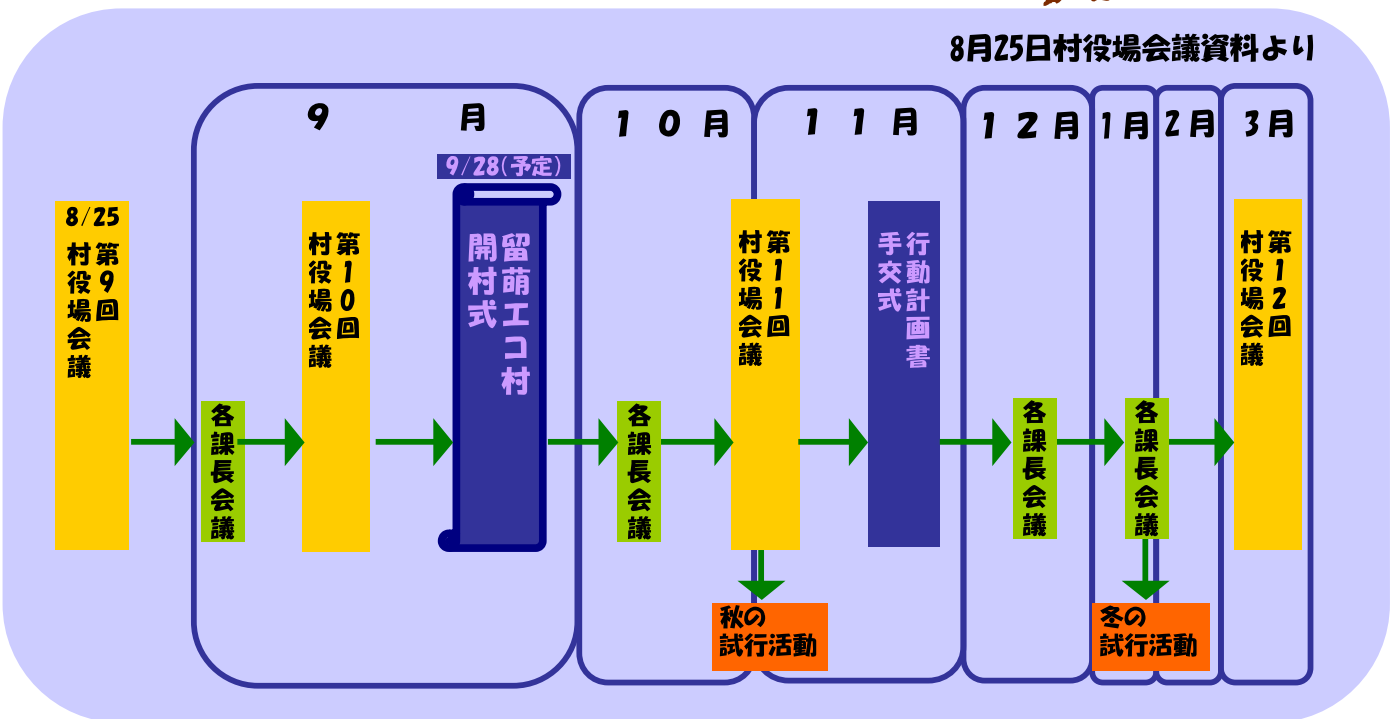
8月25日（月）、留萌中央公民館で第9回村役場会議（検討会）が開催されました。

7名の検討会委員の皆様に参加していただき、活発な話し合いがなされました。

今回の村役場会議では、平成20年度の年間スケジュールを皆さんで確認を行い、「留萌エコ村開村式」に向けた議題を中心に意見交換が行われ、事前に行われた、各課長会議の検討結果等、企画課長からの報告もありました。

平成20年度年間スケジュール（案）

今年度の年間スケジュールを皆さんで確認を行いました。
（素案ですので変更もありえます・・！！）



留萌エコ村開村式に向け！！

いよいよ開村式に向けた具体な話し合いがなされ企画課長より以下の提案がなされました。

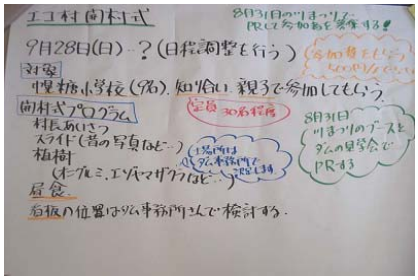
～各課長会議からの提案～

■開催日　９月２８日（日曜日）

■プログラム（案）

・村長挨拶　・村役場職員紹介　・留萌ダムとチバベリの歴史紹介　・記念植樹
・食事　・看板設置　・その他

具体な意見交換



意見交換では主に記念植樹・留萌ダムとチバベリの歴史紹介・昼食について行われました。

記　念　植　樹

〇寿命がある程度長い樹種が良い。

〇複数種を狭いエリアで植えると、競争になりその地にあった樹種が成長する。この方法で適当な樹種選定してみても良い。

〇植樹は家族で行うと、世代を超えて地域への愛着を引き継げる。

※桜は花見が出来るので良いが、手入れが大変そうなので難しい。

留萌ダムとチバベリの歴史紹介

〇昔の本や写真をスキャンしてパワーポイントで紹介するのが良い。

〇簡単なパンフレットを作成する。

※寸劇は飛渡さんの絵を使えるが、準備期間が少ないので難しい。

昼　食

〇参加者を募る面などから、昼食は提供した方が良い。

〇キノコ汁など秋の味覚の提供

※昼食を外で食べるのは、準備の面などから難しい。

その他

・参加費を徴収する。（500円程度）
・定員を30名程度にする。
　幌糠小学校の生徒と先生に来てほしい。
・看板の裏面に開村日を掘る。
・川まつりでPRした方が良い。
・移動方法・開催場所（移動距離は少ない方がよい）

今後の予定・・各課長会議で案を練ります！

今回、村役場会議の中では、留萌エコ村開村式について提案がありましたが、プログラムが形づくられてきましたので、もう少し、各課長会議（代表者会議）で打合せを行いたいと思います。
そこで内容を詰めていき、また村役場会議のなかで議論していただけたらと思います。

※　行動計画書（素案）が皆様に届いているかと思いますが修正等ございましたらお知らせ願います。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：えん堤班　工務係）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番地　電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン検討会だより

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
fax：0164-42-0195

vol.11　2008年10月発行

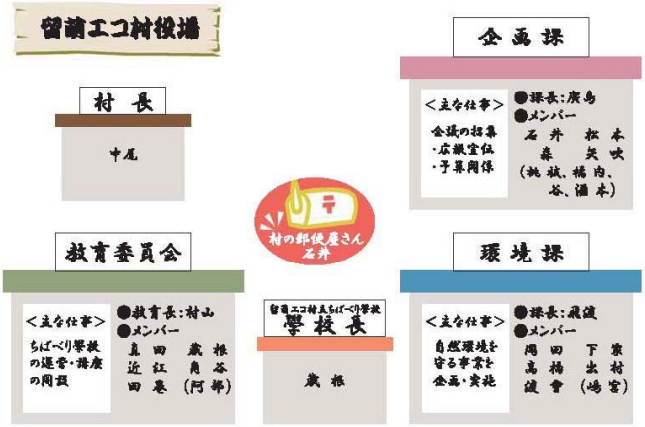
「留萌エコ村」ついに開村！！

9月28日（日）、小春日和・・？とまでは言えませんでしたが、幌糠小学校多目的ホールにて、８名の検討会委員の他に幌糠小学校児童、幌糠小学校教員、地元幌糠の一般参加者の参加により「留萌エコ村」の開村式を迎えることが出来ました。

この日を迎えるために、各課のメンバーが様々なアイディアを出しプログラム作成に奮闘してきました。

今回は、皆さんの努力のもとに開かれました開村式の模様をお伝えしたいと思います。

9/22(月)開村式に向けた村役場会議



幌糠小学校児童のくす玉割より開村！！

いよいよ開村式が始まりました。
廣島企画課長の司会により式が進められました。

幌糠小学校児童のくす玉割。
見事に割れました！！

中尾村長の挨拶です。
気合い入っていました！！

飛渡課長の力作です！

村山教育委員長よりエコ村の憲章を朗読。

飛渡環境課長より千バベリの歴史や自然のお話しがありました。

留萌川洪水の歴史と留萌ダムについても学びもした。

さあ、みんなで植えよう！！

植え方の説明を聞き、みんなで記念植樹！
1つの円の中に10種類の木を植えるんだね！

僕が植えているのはオニグルミ！！

どの木にしようかな・・・？

おまちどおさまです！！
本日のお昼ご飯は鮭とキノコの炊き込みご飯です。

検討委員、近江さんの力作です！！

完成間近の留萌ダム！→

午後からは留萌ダム見学です。
ダムを盛り立てている材料も間近に！

今後の予定・・次は行動計画の手交式ですね！

次回、村役場会議では行動計画書の手交式が中心になると思われます。
議題等今後のスケジュールを考えていきたいと思います。
また村役場会議のなかで議論していただけたらと思います。（次回、村役場会議は近日お知らせします。）

※　行動計画書（素案）が皆様に届いているかと思いますが修正等ございましたらお知らせ願います。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部　留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：えん堤班　工務係）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番地　電話：0164-42-5831　Fax：0164-42-0195

留萌ダム水源地域ビジョン
企画会議通信

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

アイディアの連鎖は止まらない！
～第一回企画会議報告

七月三十日、第一回目の企画会議を開催しました。この会議では、この秋に実践予定の取り組みについて、具体的にアイディアだしを行い、それを検討会に提案することを目的に開催されます。

↑会議スタート時の様子。まだまだちょっと、かた～い様子の出席者の皆さん。この後は、発言の順番待ちになるのです！（参加者：下家、宍戸、出村、廣島、飛渡、　村山、森、事務局：7名）

「ちばべり學校」なんて、いかがでしょう？

会議は、誰かが発言すると、それに伴って次々と、連鎖反応のように発言がとびだし、あっという間に九十分が経過しました。ちょっとだけ、会話をご紹介。

やってる自分たちが楽しくないとダメよね～。普段自分がやってることから離れて考えてみようよ。私は、基地をつくってみたい！

森に行くと色々出来るよ。松ぼっくりに葡萄のつるでリースもつくれる。樹液とりもどお？メイプルシロップは長持ちするよ。

やっぱり、環境にも優しい、バイオディーゼルで車を走らすなんてのはどうかな？米ぬかからも作れるよ。

コンテストとかくじ引きとか、そういうのも楽しいよね。オマケがあるってのは魅力じゃない？

お知らせ！

-第2回企画会議の-
ご案内

- 日にち
  8月28日（火）
- 時間
  18：30～
- 会場
  留萌中央公民館
  研修会議室A

留萌の小麦に、メイプルシロップで、パン作りとかも楽しそう！メイプルシロップに集まってくるクワガタとかなんかも、あり！色々アイディアが浮かんでくる～！

ちょいとまって。これは、ダムあっての事業だから、ダムについてもしっかり学び、関連性を持たせないとダメじゃないかい！？

自然との関わり方、礼儀というのも学べる場になるといいわね。

楽しいことをつなげた授業にしたらいいんじゃない？座学あり、体験あり、給食あり！どお？

活動を継続するには、ちゃんとお金の事も考えないとね。

そんなわけで、第一回企画会議では、

- 「ダムを知る」「体験をする」「食を楽しむ」の三本柱で活動を展開するのが良いのではないか？
- 地域を改めて知り、息の長い活動になるように「学校」という形式をとってはどうか？
- 十月に開校を目指して準備を進める

ということが、意見として出されました（詳細については企画会議のまとめ資料をご覧下さい）。次回は、更に具体的な秋のプログラムを考えます！

留萌ダム水源地域ビジョン 企画会議通信

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

「自分たちが楽しいと思えるもの」が基本だよね。

～第二回企画会議報告

八月二十八日、第二回目の企画会議を開催しました。秋の実践活動がだんだん迫ってくる中、二時間を越える活発な意見交換の場となったのでした。

前回この通信で、活動の名称を「ちばべり學校」としてはどうだろう、という意見を紹介しました。が、今回はまずこれが議論のネタとなりました。

～『學校』という名称を考えてみる～

「学校」っていうと、これまでの議論をよ～く知らない人には、コトバのイメージが固まり過ぎない？

いまどき、「学校」ってのは流行らないんじゃ？

そおかなぁ～。長く続けられて、いろんな要素を盛り込めるから、「学校」がいいんじゃないかな・・・。

みんなの活動に対する『想い』は同じ。

- ●活動する自分たち自身が楽しいと思えるものをしていきたいね。
- ●ダムという水辺から始まる、「水」「森」と人との暮らしを結ぶような活動にしたいね。

・・・ということで、どういう名称・仕組みにしたらいいかは、検討会の中でもこれからじっくり考えていこう！となったわけです。

今年は、「できることからやってみよう！」が目標ですから、まずは「秋の実践活動」をやってみよう！

↑「想い」が形になっていくのって、ワクワクしますね（参加者：角谷、下家、真田、宍戸、富田、廣島、飛渡、村山、渡會）

宍戸さんがシラカバの樹液とイタヤカエデのメープルシロップを持ってきてくれました。初めての味！→

お知らせ！

-第5回検討会の-
ご案内

- 日にち　9月13日（木）
- 時間　18：30～
- 会場　留萌産業会館 小ホール

「知る」「体験する」「食を楽しむ」の3本柱で！

じゃ、何をする？となると、みんなワクワク顔で話が盛り上がったのは、言うまでもありません。そんなわけで、企画会議から検討会への提案は、こうなりました。

10/13（土）

留萌ダム水源地域ビジョン　秋の活動（案）

お品書き

テーマ　留萌エコ村づくり・拠点づくり！

知
- 留萌ダムについての学習～ダムの面白さ、発見しましょう！

体験
- リースづくり～ブドウのつるや松ぼっくりなどを使って
- 小屋づくり～基地・拠点となるようなものに！

食
- 箸づくり～自分の箸を自分で作るのだ！
- 食のメニュー～未定。きのこ汁という案もありますが・・・。

さあ、具体が見えてきました。材料はどうする？場所は？などなど、考えなきゃならないこと、たくさんありますね。この続きは、第5回検討会の中で！

留萌ダム水源地域ビジョン 企画会議通信

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

私たちのまちのことだもの、私たち自身が中心となろうよ！

留萌ダム水源地域ビジョンづくりは、計画をつくってから実際に活動をするのではなく、できそうなことをまずやってみて、その経験を活かした計画にしていこう！という進め方で取り組んできました。第4回企画会議（11／21）では、秋の実践活動の課題の整理からスタートしました。

↑活動を通じて感じたことを生かせる計画にしていきたいですね。（参加者：下家、真田、出村、中尾、廣島、飛渡、松本、村山、渡會）

秋の活動、どうだった？

検討委員自身が主体になって活動を動かせなかったわね。

企画会議で決めたことと、実際に現場で行っていたことが違っていて、あれ？って思ったところもあったわ。

活動を実際に行うって、計画と段取りが重要だってわかったよ。慣れてなくても、時間をちゃんとかけたり、工夫したりすれば、自分達でもできると思うよ。

実際に企画や運営に係ったり、参加したことで「実感」できたことがたくさんありました。個人個人が感じていた課題をみんなで整理したことで、改善すべき点も見えていました。

ビジョンができた後、市民が主体となってその計画を動かすために、今から「自分たちの」という気持ちで計画づくりも取り組んでいかないと、急には無理だわ、と。

自分たちでやってみる！

そこで！

資料づくりや進行も、企画会議しべルでは「自分たちで」やってみない？ということが提案としてあがりました。（頼りない事務局でゴメンなさい！）

まずはやってみよう！ということで、次回の第5回企画会議では、委員による提案資料を基に、委員進行で会議を進めることになりました！今までの会議と一味も二味も違った会議になりそうですね。

これからのこと。

まだ企画会議しべルではありますが、留萌ダム水源地域ビジョンを、「留萌エコ村構想」としてまとめていきたいということがあがっています。環境に配慮したダムのつくり、自然環境の復元に取り組んでいる種とり探検隊の活動も、「エコ」の視点を持ったものですもんね。

↑留萌ダムの現場から取れる粘土を使って陶芸ができない？

留萌ダム水源地域ビジョンは、今年度中に策定を目指してこれから計画をつくっていきます。これまで検討会などであがっていた活動案の中で、実際に「自分たちで取り組んでいける・取り組みたい活動」を整理する必要も出てきます。

さぁ！これからは「やりたいことを形にしていく」大事な段階です。

一緒に、がんばっていきましょ～！

お知らせ！

-第5回企画会議のご案内

- 日にち
  12月13日（木）
- 時間
  18：00～
- 会場
  働く婦人の家
  2階講習室

留萌ダム水源地域ビジョン
企画会議通信

留萌ダム建設事業所
〒077-0037
留萌市沖見町3丁目91
tel：0164-42-5831
Fax：0164-42-0195

考えた。活動もした。次は計画＝構想づくり いよいよスタート！

十二月十三日、十一名の検討委員参加のもと、第5回企画会議が開催されました。

この二年間の検討会・企画会議での議論、そして実際にやってみよう！で行った秋の実践活動を通じ、皆さんが感じたこと・考えたことを「留萌ダム水源地域ビジョン」として、具体的な計画にまとめていく段階です。

今回は、資料作りも進行も、「自分達」でやってみるということにも初挑戦。

いつもに増して活発な議論を行いました。

↑想いを具体のコトバにしていくために、言葉を交わす。大変だけと楽しい時間。
（参加者：石井、角谷、下家、真田、中尾、廣島、飛渡、松本、森、村山、渡會）

第四回検討会の時に、秋の活動の名称案としてあがったのが「秋のエコ曜日」でした。そして、第一回企画会議の中で、これからの活動を「留萌エコ村立ちばべり學校」という仮想の村・学校での取り組みとして考えてみたらどうだろう？となったわけです。それな経緯で出てきた「エコ村」という名称ですが、改めて「エコ」ってなんだ？！が議論になりました。

「エコ」って、よく耳にするけれど、そのとらえ方は千差万別。委員同士の間でも、当然違っていたわけで・・・。

最初の話題はこれ！

「エコ」とは何ぞや?!

エコと、この活動って結びつかないんじゃない？？

「地球温暖化防止」とか？

環境に配慮したダムだけど、やっぱり自然のままなわけじゃない。

壊してしまった自然を補っていくこと、そういう活動が大事なんじゃない？

「環境を意識する」ということは、つまり「エコ」なのよ。

なんだかえらくたいそうなことをするように聞えない？

グローバルな取り組みも、小さなことからコツコツも、どっちも「エコ」じゃない？

留萌の「環境・自然」を愛して、守りながら活動していくって共通認識をもてればイイと思うよ。

こうやって、「エコ村」という言葉をきっかけに、多くの人が「留萌の自然」を意識することが、大事なのでしょうね。。。。

お知らせ！

-第7回検討会の-
ご案内

- 日にち
  1月24日（木）
- 時間
  18：30～
- 会場
  留萌中央公民館
  研修会議室1号室

留萌エコ村構想案です

留萌エコ村構想を具体にするために必要な項目について、時間ぎりぎりまで議論が重ねられました。時間切れになった部分もありますが簡単にご紹介します。

目指す姿

- 水の大切さ、ダムの必要性を学び広く周知する
- 留萌ダムに関連する歴史的な背景から留萌を知り伝承する
- 留萌ダム流域（上流から下流）を利活用した事業で留萌を売り込む（観光事業）
- 自然空間の中での遊び心を育み、人に優しい自然環境を維持する取り組みを継続する

憲章

一、ふるさと探検
一、水環境の保全
一、自然空間で遊び、感じる

↑目指す姿をやさしいコトバで表現したいね、というご意見が出されています。

組織

- 村長
- 教育委員会（ちばべり学校の運営・講座の開設）
- 環境課（自然環境を守る事業を企画・実施）
- 企画課（会議の召集・広報宣伝・予算関係）

ちばべり學校 校訓

一、「学ぶ」
一、「体験する」
一、「食」を楽しむ

お待たせしました！開催案内は後日改めてお送りします！

検討会を開催します！

これまで、企画に興味があったり、時間にご都合のつく委員有志による企画会議で、秋の実践活動や、ダムビジョン（エコ村構想）案について意見交換を行ってきました。

次は、検討会の中でその案について議論し、磨きをかけていくことになります！

一月二十四日（木）、会場は留萌中央公民館です！みんなでさらにいい計画となるように意見交換をしましょう！